

2018 年度 教育活動活性化提案事業
国際教育プログラムの学習成果の検証と質保証
報告書

1. 調査概要

本事業は、本学が実施する国際教育プログラムの質保証を目的として、海外留学プログラムの効果と参加学生の学習成果を検証するものである。具体的には、海外留学プログラム参加者の留学前後の意識変化及び英語能力検定スコアの変化の2つの観点から、客観的データを元に調査を行った。

① 留学前後の意識変化

海外留学参加者を対象として学習成果を客観的に測定するための心理分析テストを実施し、海外留学体験者の留学前後の意識変化を調査した。分析には、ミシガン州立大学が開発した心理分析テストツール「BEVI」の日本語版を利用した。BEVIは、収集データを6つの評価指標: (1)中核的欲求の充足、(2)不均衡の許容、(3)批判的思考、(4)自己とのかかわり、(5)他者とのかかわり、(6)世界とのかかわり、を用いて分析し、意識変化を可視化することができる。

② 英語能力検定スコアの変化

交換留学派遣学生に帰国後1か月以内に TOEFL-iBT 公式模擬テストを受験させ、留学前に取得したスコアと比較することで、総合的英語運用能力の変化を測定し、留学の効果を検証した。

2. 調査方法

2.1. 調査対象プログラム

① 留学前後の意識変化

2018 年度夏季に実施した海外短期留学プログラム（交換留学を除く）

・ 海外体験学習（体）・語学研修（語）[表1]

研修名称	区分	受入先	出国日	帰国日	渡航日数	参加人数
EAT2018	体	梨花女子大学	8/5	8/19	15	7
グローバル社会の私たちの食・環境	体	カリフォルニア大学 デイビス校	9/7	9/22	16	17
グローバルフィールド学・国際関係特別講義	体	スリランカ	8/30	9/10	12	4
中国語・文化研修	語	同済大学	8/27	9/9	14	4
韓国語・文化研修	語	釜山外国語大学校	8/6	8/25	20	5
英語・イギリス文化研修	語	マンチェスター大学	8/17	9/9	24	14

・ Exploring Your Horizons(EYH) [表2]

研修名	区分	受入国	実施期間	参加人数
Sangam World Center	体	インド	8-9月	1
Förlags Ab Lindan Kustannus Oy	体	フィンランド	8-10月	1
プーラ大学日本語教育実習	体	クロアチア	9-12月	2

② 英語能力検定スコアの変化

・ 2018～2019 年度派遣交換留学

2.2. 調査期間

① 留学前後の意識変化の測定

留学前テスト：7月31日

留学後テスト：プログラム終了（帰国）後（8月～10月）

① 英語能力検定スコアの変化

第1回：9月18日～20日

第2回：3月19日（結果集計は2019年4月に行う予定）

2.3. 収集データ

① 留学前後の意識変化

夏季短期海外留学プログラム参加者（海外体験学習、語学研修）及び交換留学派遣者 68 名を対象として、アンケート形式でデータを収集した。（体験学習及び語学研修の対象者は 55 名、交換留学対象者は 13 名）

交換留学派遣者については 2018 年 8 月以降に出発するものを対象とした。対象者の内、留学前に受験し 1 学期間の留学期間を終えて帰国した者、つまり留学前と帰国後の双方の受験を終えた者は 4 名である。データが少数であるため、今回の分析対象とはできなかった。データ数増加後に分析する予定である。

② 英語能力検定スコアの変化

交換留学帰国者 19 名を対象として、TOEFL-iBT 公式模擬試験を受験させ、データを収集した。調査対象者は交換留学開始前にすでに何らかの検定を受験しているため、留学前データにはこのスコアを使用し、帰国後に 1 回受験させ、留学前後のスコアの変化を調べた。ここで報告するデータは、2018 年 9 月受験者 9 名のものである。

2.4. データ分析方法

留学前後の意識変化は、心理分析テストツール BEVI を使用して測定した。調査対象者にアンケート形式のテストを留学前後の計 2 回受験させ、留学前手テスト（T1）と帰国後テスト（T2）のデータを比較分析し、前後の心理状態の変化を数値とグラフで可視化する。プログラム毎の分析結果に加え、体験学習型と語学研修型のタイプ別比較を行うことで、プログラム内容とその効果の関連性を考察した。

データの収集と分析に用いた BEVI は、相互に関連する 4 つの質問項目から構成されている^a。

- ・ 包括的な人口統計・背景情報に関する質問項目
- ・ 生い立ち、経歴に関する質問項目
- ・ 2 つの妥当性と 17 の「尺度」に関する質問項目
- ・ 3 つの質的な「経験に対する内省的」質問項目

このうち、意識変化の測定に使用されるのは、主に 17 の「尺度」に沿った質問項目である。各尺度の概要は[表 3]及び[表 4]の通りである。

[表 3：BEVI 尺度]

領域	尺度
I. 形成的因子 Formative Variables	1. 人生における負の出来事 Negative Life Events
II. 中核的欲求の充足 Fulfillment of Core Needs	2. 欲求の抑圧 Needs Closure 3. 欲求の充足 Needs Fulfillment 4. アイデンティティの拡散 Identity Diffusion
III. 不均衡の許容 Tolerance of Disequilibrium	5. 基本的な開放性 Basic Openness 6. 自己に対する確信 Self Certitude
IV. 批判的思考 Critical Thinking	7. 決定論・必然論的性向 Basic Determinism 8. 社会・情動の理解 Socioemotional Convergence
V. 自己の理解・アクセス Self Access	9. 身体への共鳴 Physical Resonance 10. 感情の調整 Emotional Attunement 11. 自己認識 Self Awareness 12. 意味の探求 Meaning Quest

^a BEVI の尺度 <http://jp.thebevi.com/about/scales/>

VI. 他者の理解・アクセス Other Access	13. 宗教的伝統主義 Religious Traditionalism 14. ジェンダー伝統主義 Gender Traditionalism
VII. 世界の理解・アクセス Global Access	15. 社会文化的オープン性 Sociocultural Openness 16. 環境との共鳴 Ecological Resonance 17. 世界との共鳴 Global Resonance

[表4：BEVI尺度解説]

I 形成的因子 Formative Variables	1. 人生における負の出来事 Negative Life Events: 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦闘、多くの後悔（「家族の1人または複数との衝突が多い」、「家族が金銭的な問題を抱えていた」など）(e.g., “I have had a lot of conflict with one or more members of my family.” “My family had a lot of problems with money.”)
II 中核的欲求の達成 Fulfillment of Core Needs	2. 欲求の抑圧 Needs Closure: 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い/不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明（「素晴らしい子ども時代だった」、「他よりも運のいい数字がある」など）(e.g., “I had a wonderful childhood.” “Some numbers are luckier than others.”)
	3. 欲求の達成 Needs Fulfillment: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり（「子どもの早期教育プログラムにもっとお金を費やすべきだ」、「自分が何者なのかを考えることが好きだ」など）(e.g., “We should spend more money on early education programs for children.” “I like to think about who I am.”)
III 不均衡の許容 Tolerance of Disequilibrium	4. アイデンティティの拡散 Identity Diffusion: アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情（「つらいアイデンティティの危機を経験している」、「男性が結婚に忠実であることを期待しているが、実際はそうはならない」など）(e.g., “I have gone through a painful identity crisis.” “Even though we expect them to be, men are not really built to be faithful in marriage.”)
	5. 基本的な開放性 Basic Openness: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直（「自分のというものについて常にいいと思っているわけではない」、「自分の人生は孤独だと感じている」など）(e.g., “I don’t always feel good about who I am.” “I have felt lonely in my life.”)
IV 批判的思考 Critical Thinking	6. 自分に対する確信 Self Certitude: 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない（「もっと頑張れば、ほとんどの問題は克服できる」、「ルールに従ってやれば、うまくやれる」など）(e.g., “You can overcome almost any problem if you just try harder.” “If you play by the rules, you get along fine.”)
	7. 基本的な決定論 Basic Determinism: 差異/行動について簡潔な説明を好み、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦労の多い生活史（「エイズは神の怒りの証だ」、「強者が生き残るのは当然だ」など）(e.g., “AIDS may well be a sign of God’s anger.” “It’s only natural that the strong will survive.”)
V 自己の理解 Self Access	8. 社会・情動の理解 Socioemotional Convergence: 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない（「不幸な人を救うためにもっと何かしなければならない」、「自分の責任を果たしていない人が多すぎる」など）(e.g., “We should do more to help those who are less fortunate.” “Too many people don’t meet their responsibilities.”)
	9. 身体への共鳴 Physical Resonance: 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する（「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など）(e.g., “I am a free spirit.” My body is very sensitive to what I feel.)

	<p>10. 感情の調整 Emotional Attunement: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社交的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密（「感情を表すのは気にならない」、「弱さは美德でありうる」など）（e.g., “I don’t mind displays of emotion.” “Weakness can be a virtue.”）</p> <p>11. 自己認識 Self Awareness: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する（「常に自分をよりよく理解しようとしている」、「取り組むべき課題を抱えている」など）（e.g., “I am always trying to understand myself better.” “I have problems that I need to work on.”）</p> <p>12. 意味の探求 Meaning Quest: 意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気強い、感受性が高い、弱者への思いやり（「人生の意味についてよく考える」、「人生のバランス感覚をもっとよくしたい」など）（e.g., “I think a lot about the meaning of life.” “I want to find a better sense of balance in my life.”）</p>
VI 他者の理解 Other Access	<p>13. 宗教的伝統主義 Religious Traditionalism: 宗教心があつい、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものと考え、 「来世」を信じる（「宗教がなければ平和はないだろう」、「天国への道がある」など）（e.g., “Without religion there can be no peace.” “There is one way to heaven.”）</p> <p>14. ジェンダー的伝統主義 Gender Traditionalism: 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む（「女性は男性より感情的だ」、「男性の役割とは、強くあることだ」など）（e.g., “Women are more emotional than men.” “A man’s role is to be strong.”）</p> <p>15. 社会文化的オープン性 Sociocultural Openness: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである（「自分とは異なる文化を理解しようとするべきだ」、「わが国では、貧富の差が大きい」など）（e.g., “We should try to understand cultures that are different from our own.” “There is too big a gap between the rich and poor in our country.”）</p>
VII 世界の理解 Global Access	<p>16. 生態との共鳴 Ecological Resonance: 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している（「環境が心配だ」、「所有者が誰であろうとも、この土地を守らなければならない」など）（e.g., “I worry about our environment.” “We should protect the land no matter who owns it.”）</p> <p>17. 世界との共鳴 Global Resonance: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる（「世界の出来事についてよく知っておくことが大切だ」、「自分とは大きく異なる人々の集団といることが快適だ」）（e.g., “It is important to be well informed about world events.” “I am comfortable around groups of people who are very different from me.”）</p>

3. 調査結果：留学前後の意識変化

[表5]は体験学習型と語学研修型のタイプ別結果と全夏季短期海外留学プログラムの結果を各尺度において比較し、グラフにまとめたものである。全夏季短期海外留学プログラムは、体験学習型と語学研修型の両タイプの平均値が表れるが、体験学習型と語学研修型には、いくつか興味深い差異がみられる。以下、主な測定結果について尺度別に述べる。各プログラムの T1/T2 レポートは追録 (P.10) に掲載する。

3.1. タイプ別、尺度別分析

5. 基本的な開放性 Basic openness は、体験学習型では低下 (54→41) を示しているのに対し、語学研修型は上昇 (46→58) している。この尺度は自分の感情、反応にどれだけ正直に反応するかを見るものであり、この数値の低下は、より自分の感情、直感をコントロールしようとする傾向を示している。これは、物事をより論理的に考えることができるようになるということでもある。反対に、数値の上昇は、自分の感情、直感をコントロールするよりも、それに正直に従おうという傾向を示しており、自己解放の度合いが大きくなっていると読み取ることができる。

6. 自分に対する確信 Self Certitude の低下は、単純なポジティブ思考を脱却し、物事をより現実的にとらえ、より深く分析していこうとする傾向を示している。両タイプとも低下しているが、体験学習型の方が低下幅は大きくなっている (33→25)。

7. 基本的な決定論 Basic Determinism とは、差異/行動について簡潔な説明を好み、つまりステレオタイプに執われたり、決めつけたりする傾向の強い考え方を表す。この数値の低下は、違いを受け入れ、より複雑なものを理解し、柔軟に考えることができるようになることを示している。体験学習型が低下 (62→53) しているのに対し、語学研修型は上昇 (57→69) している。

10. 感情の調整 Emotional Attunement の低下は、自分の感情や弱さの表出をコントロールができるようになることであり、精神的自立と感情的成熟を示している。基本的な開放性の尺度と呼応するとも考えられ、体験学習型は低下 (50→43) しているのに対し、語学研修型は上昇 (42→53) している。

12. 意味の探求 Meaning Quest の上昇は、より深く人生の意味を考えるようになり、物事に根気強く取り組み、弱者への思いやりや感受性が深まる傾向を示している。語学研修型では変化がないのに対し、体験学習型は上昇 (25→31) している。

17. 世界との共鳴 Global Resonance の上昇は、世界の出来事に関心をもつことができるようになり、自分と異なる人々の集団に溶け込むことができるようになることを意味する。両タイプとも上昇しているが、体験学習型の方が上昇幅は大きくなっている (46→54)。

3.2. まとめ

このように、二つのタイプの研修を比較してみると、総じて、体験学習型の参加者には、論理的思考、思考の柔軟性、分析力、多様性の許容、感情的成熟、世界との共鳴等に関し、良好な変化が見られる。これは、体験学習型の特色である現地の人々との接触や共同作業など、実際の活動体験を通して学びを促進する教育形態の有効性を示しているということができよう。また、今回は学年別のデータ分析は行っていないが、参加者中の3、4年生の割合が、体験学習型は62%、語学研修型は9%であることも、影響していると考えられる。

一方、語学研修型には、体験学習型のような成長は認められなかったが、主に、5.基本的な開放性、7.基本的な決定論、8.社会・情動の理解、11.自己認識において上昇がみられた。また、2.欲求の抑制及び3.欲求の達成では、体験学習型よりも上昇幅が大きく、4.アイデンティティの拡散においては顕著な上昇を示している。これらの結果に対する一つの解釈として考えられるのは、語学研修型においては、学生たちは、普段生活している環境とは大きく異なる広い世界に初めてその身をおくことで、それまで抑圧されていたと思われる自己を解放しようとする考え方に気づき、それと同時に、自分のアイデンティティを考える経験をしたのではないか、というものである。

これらの結果を踏まえ、二つの短期留学のタイプの特徴を活かした新規海外短期研修の開発や、既存研修の改良に取り組んでいくことが重要である。

4. 調査結果：英語能力検定スコアの変化

留学前後の英語能力検定スコアの比較を [表6] に示している。留学後の能力測定には全員 TOEFL-iBT を受験させているが、留学前のスコアは、TOEFL-ITP または IELTS のものであるため、Educational Testing Service がウェブ上で公開する換算表を用いて比較した。TOEFL-ITP から TOEFL-iBT への変換は、TOEFL-PBT からの変換表を用いた。しかしながら、TOEFL-ITP は TOEFL-PBT テストの問題を再構成し、時間を短縮し、問題の難易度を下げて作成され「読む」「聞く」の2技能の測定に限定されたテストである^bため、実質的なスコアより高く換算されているといえる。ここでは、IELTS 受験者のスコアの変化を参考とするが、ほとんどのケースで10~20ポイントの伸びを示している。

^b CIEE : <https://www.ciee-onlineshop.jp/blog/p/20161014.php>




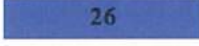
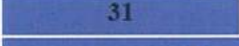





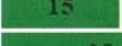




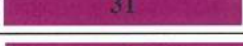








5. 本研究の限界

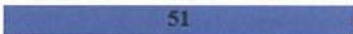

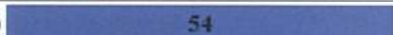




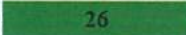


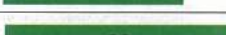


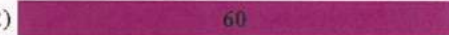
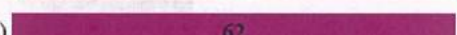
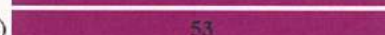
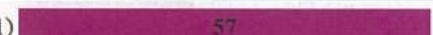









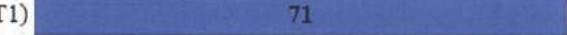
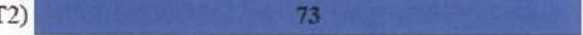


本研究は、海外留学による学習成果を継続的に測定することを目的としているが、この報告に関わる研究は第一段階の夏季短期海外留学プログラムのみを対象とするものであるため、60名程度のデータに留まっている。このため、結果の有効性には限界があるであろう。また、学年別の分析も行っていく必要がある。今後、本学が実施する海外留学プログラムのデータを継続的に収集、蓄積していくことで、より有効性の高い測定結果が得られることが期待される。2019年3月には春季プログラムのデータを収集、その後も順次データを収集してゆく予定である。

[表 5: T1/TS タイプ別比較表]


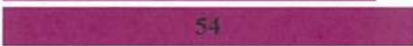

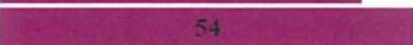

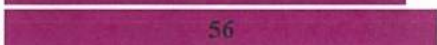








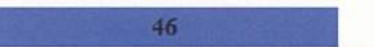

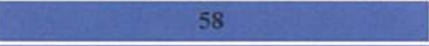

low

high

1. 人生における負の出来事 Negative Life Events	
全夏季研修	1. Negative Life Events (T1)  31
	1. Negative Life Events (T2)  32
体験学習型	1. Negative Life Events (T1)  31
	1. Negative Life Events (T2)  26
語学研修型	1. Negative Life Events (T1)  31
	1. Negative Life Events (T2)  48
2. 欲求の抑圧 Needs Closure	
全夏季研修	2. Needs Closure (T1)  15
	2. Needs Closure (T2)  18
体験学習型	2. Needs Closure (T1)  15
	2. Needs Closure (T2)  15
語学研修型	2. Needs Closure (T1)  15
	2. Needs Closure (T2)  25
3. 欲求の達成 Needs Fulfillment	
全夏季研修	3. Needs Fulfillment (T1)  30
	3. Needs Fulfillment (T2)  35
体験学習型	3. Needs Fulfillment (T1)  28
	3. Needs Fulfillment (T2)  31
語学研修型	3. Needs Fulfillment (T1)  32
	3. Needs Fulfillment (T2)  42
4. アイデンティティの拡散 Identity Diffusion	
全夏季研修	4. Identity Diffusion (T1)  20
	4. Identity Diffusion (T2)  34
体験学習型	4. Identity Diffusion (T1)  22
	4. Identity Diffusion (T2)  20
語学研修型	4. Identity Diffusion (T1)  19
	4. Identity Diffusion (T2)  63

5. 基本的な開放性 Basic Openness	
全夏季研修	5. Basic Openness (T1)  51
	5. Basic Openness (T2)  47
体験学習型	5. Basic Openness (T1)  54
	5. Basic Openness (T2)  41
語学研修型	5. Basic Openness (T1)  46
	5. Basic Openness (T2)  58
6. 自分に対する確信 Self Certitude	
全夏季研修	6. Self Certitude (T1)  32
	6. Self Certitude (T2)  26
体験学習型	6. Self Certitude (T1)  33
	6. Self Certitude (T2)  25
語学研修型	6. Self Certitude (T1)  30
	6. Self Certitude (T2)  27
7. 基本的な決定論 Basic Determinism	
全夏季研修	7. Basic Determinism (T1)  59
	7. Basic Determinism (T2)  60
体験学習型	7. Basic Determinism (T1)  62
	7. Basic Determinism (T2)  53
語学研修型	7. Basic Determinism (T1)  57
	7. Basic Determinism (T2)  69
8. 社会・情動の理解 Socioemotional Convergence	
全夏季研修	8. Socioemotional Convergence (T1)  26
	8. Socioemotional Convergence (T2)  29
体験学習型	8. Socioemotional Convergence (T1)  27
	8. Socioemotional Convergence (T2)  27
語学研修型	8. Socioemotional Convergence (T1)  25
	8. Socioemotional Convergence (T2)  31
9. 身体への共鳴 Physical Resonance	
全夏季研修	9. Physical Resonance (T1)  72
	9. Physical Resonance (T2)  72
体験学習型	9. Physical Resonance (T1)  71
	9. Physical Resonance (T2)  73
語学研修型	9. Physical Resonance (T1)  72
	9. Physical Resonance (T2)  72

10. 感情の調整 Emotional Attunement		
全夏季研修	10. Emotional Attunement (T1)	47
	10. Emotional Attunement (T2)	47
体験学習型	10. Emotional Attunement (T1)	50
	10. Emotional Attunement (T2)	43
語学研修型	10. Emotional Attunement (T1)	42
	10. Emotional Attunement (T2)	53
11. 自己認識 Self Awareness		
全夏季研修	11. Self Awareness (T1)	70
	11. Self Awareness (T2)	72
体験学習型	11. Self Awareness (T1)	72
	11. Self Awareness (T2)	73
語学研修型	11. Self Awareness (T1)	66
	11. Self Awareness (T2)	72
12. 意味の探求 Meaning Quest		
全夏季研修	12. Meaning Quest (T1)	25
	12. Meaning Quest (T2)	28
体験学習型	12. Meaning Quest (T1)	25
	12. Meaning Quest (T2)	31
語学研修型	12. Meaning Quest (T1)	25
	12. Meaning Quest (T2)	25
13. 宗教的伝統主義 Religious Traditionalism		
全夏季研修	13. Religious Traditionalism (T1)	21
	13. Religious Traditionalism (T2)	28
体験学習型	13. Religious Traditionalism (T1)	22
	13. Religious Traditionalism (T2)	26
語学研修型	13. Religious Traditionalism (T1)	20
	13. Religious Traditionalism (T2)	30
14. ジェンダー的伝統主義 Gender Traditionalism		
全夏季研修	14. Gender Traditionalism (T1)	35
	14. Gender Traditionalism (T2)	30
体験学習型	14. Gender Traditionalism (T1)	37
	14. Gender Traditionalism (T2)	31
語学研修型	14. Gender Traditionalism (T1)	34
	14. Gender Traditionalism (T2)	26

15. 社会文化的オープン性 Sociocultural Openness	
全夏季研修	15. Sociocultural Openness (T1)  49
	15. Sociocultural Openness (T2)  54
体験学習型	15. Sociocultural Openness (T1)  47
	15. Sociocultural Openness (T2)  54
語学研修型	15. Sociocultural Openness (T1)  52
	15. Sociocultural Openness (T2)  56
16. 生態との共鳴 Ecological Resonance	
全夏季研修	16. Ecological Resonance (T1)  35
	16. Ecological Resonance (T2)  39
体験学習型	16. Ecological Resonance (T1)  40
	16. Ecological Resonance (T2)  42
語学研修型	16. Ecological Resonance (T1)  29
	16. Ecological Resonance (T2)  35
17. 世界との共鳴 Global Resonance	
全夏季研修	17. Global Resonance (T1)  51
	17. Global Resonance (T2)  56
体験学習型	17. Global Resonance (T1)  46
	17. Global Resonance (T2)  54
語学研修型	17. Global Resonance (T1)  58
	17. Global Resonance (T2)  59

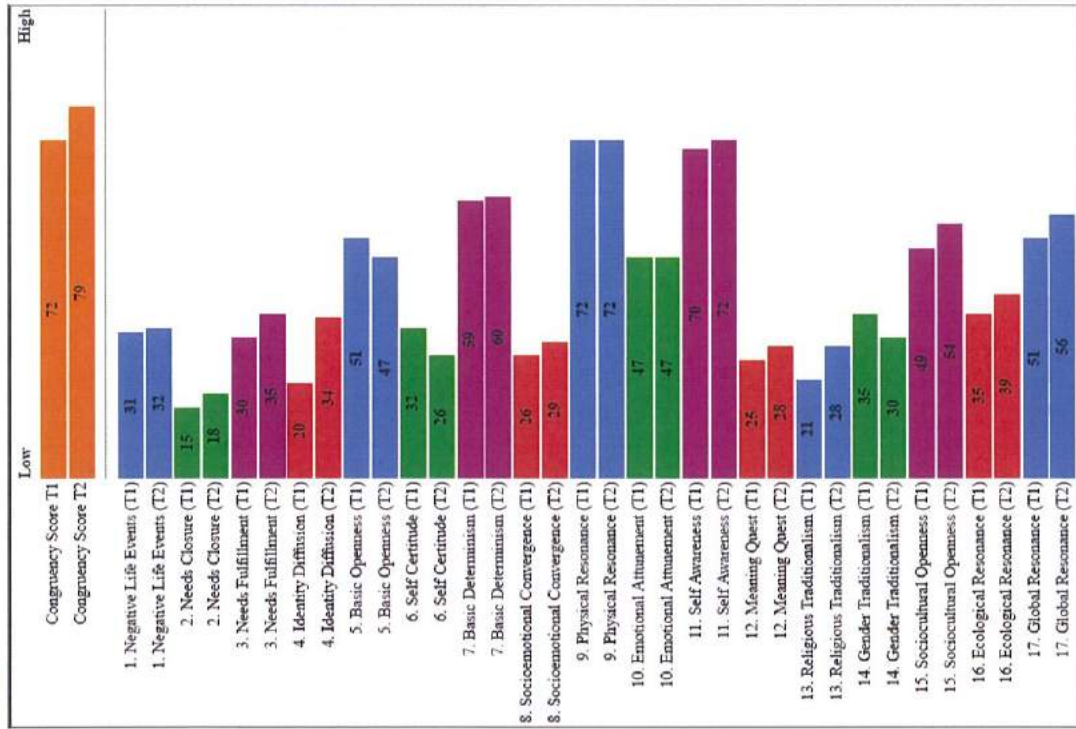
[表6：英語検定スコア変化]

データ	留学先	留学前		留学後
		IELTS	TOEFL-iBT 換算	TOEFL-iBT
A	ルーヴアン大学	IELTS 5.5	46-59	71
B	ルーヴアン大学	TOEFL-ITP 530	71	61
C	ルトン大学	TOEFL-ITP 530	71	73
D	オークランド大学	IELTS 6.0	60-78	65
E	タマサト大学	IELTS 5.5	46-59	80
F	ガジヤタ大学	TOEFL-ITP 530	71	66
G	釜山外国語大学	TOEFL-ITP 473	52	42
H	淡江大学	IELTS 5.5	46-59	76
I	同済大学	TOEFL-ITP 487	57	72

(追録) T1/T2 レポート Aggregate Profile

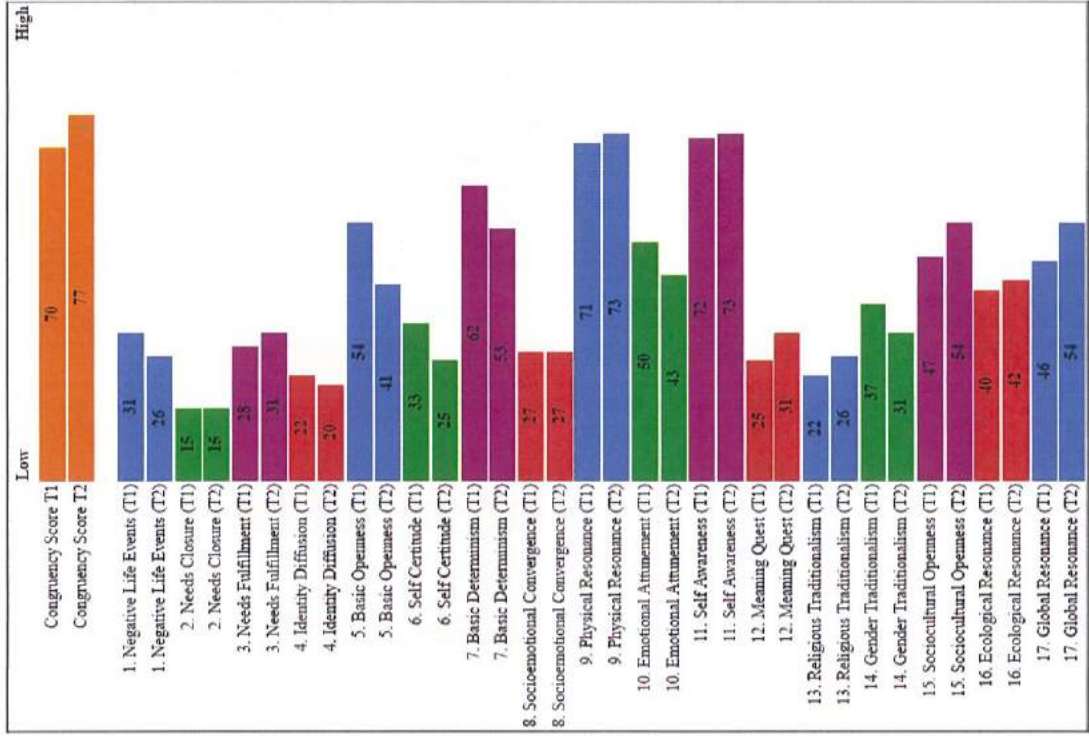
全夏季海外短期留学プログラム (体験学習・語学研修)

N = 64



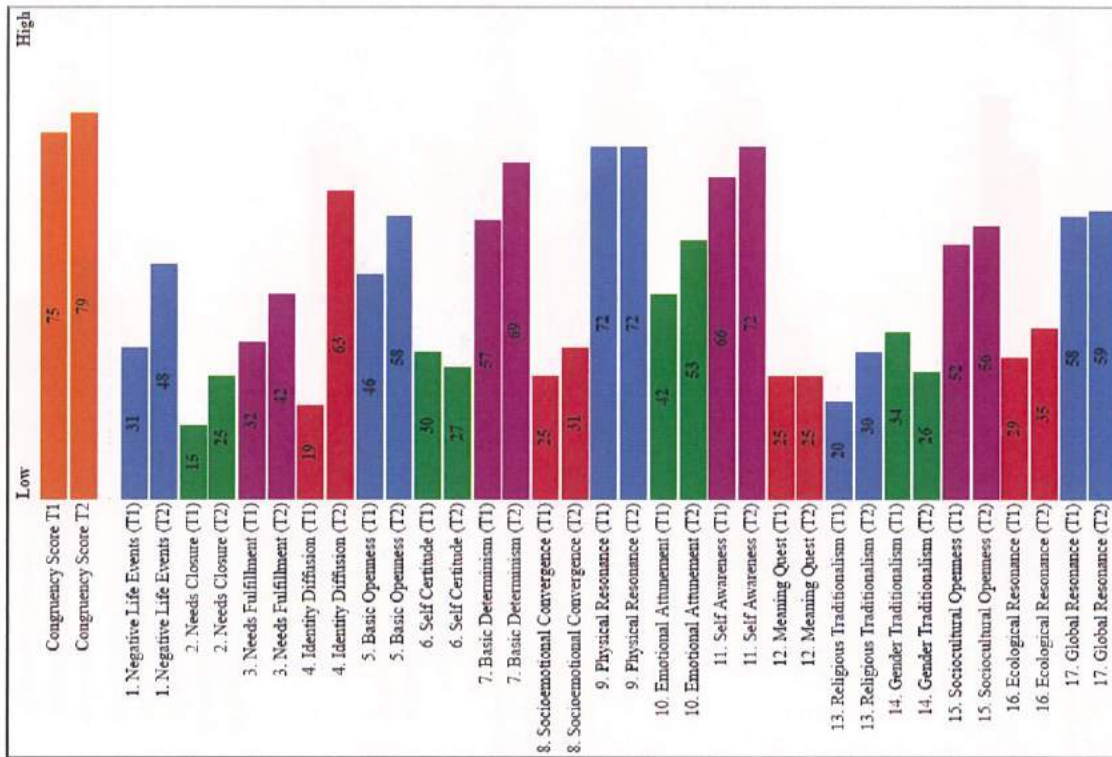
体験学習型

N = 37



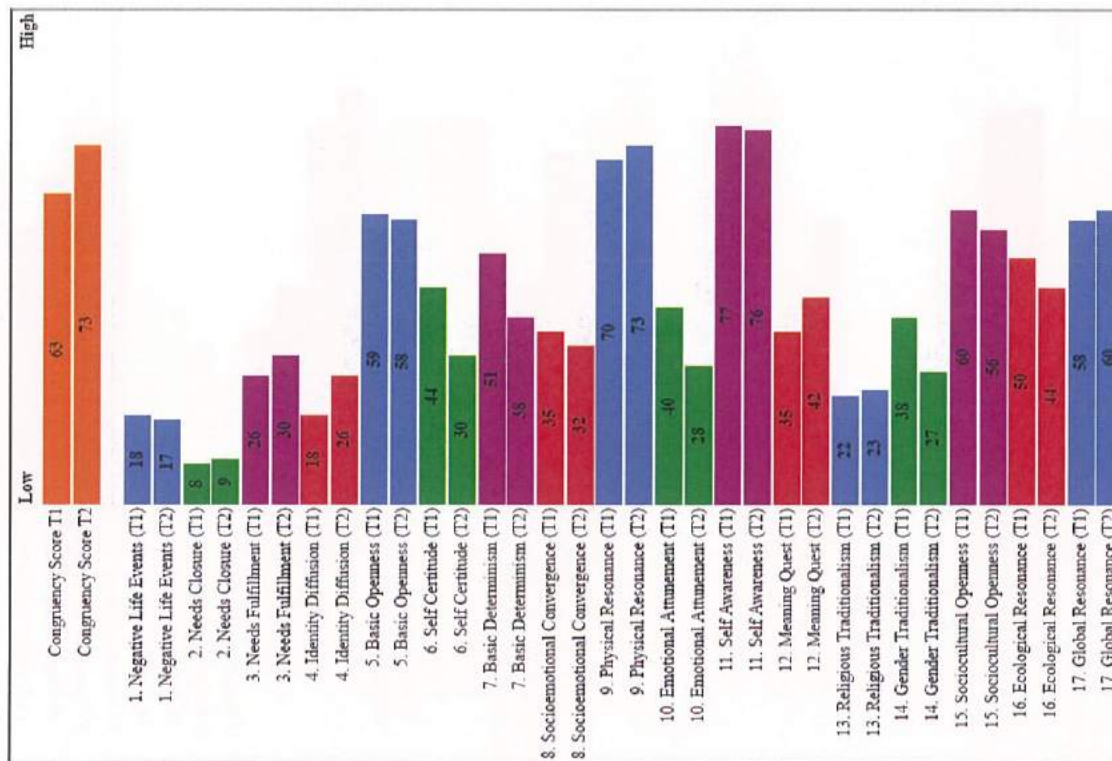
語学研修型

N = 29



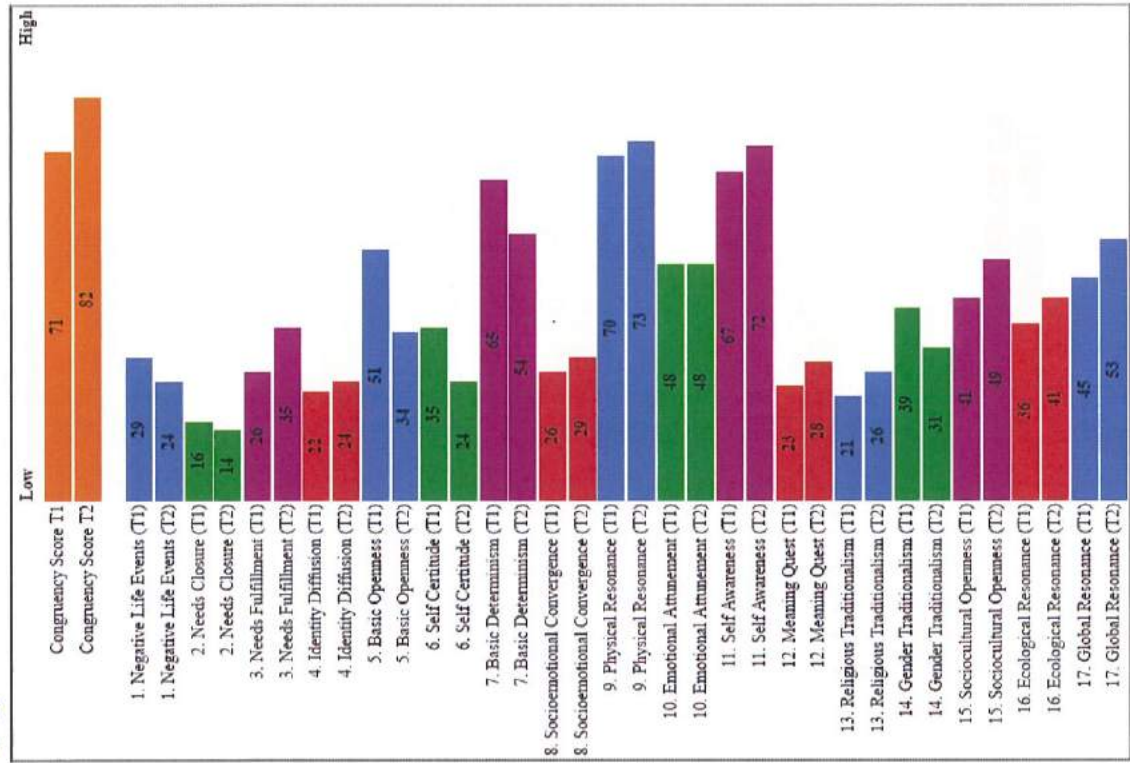
EAT2018 (体験学習型)

N = 6



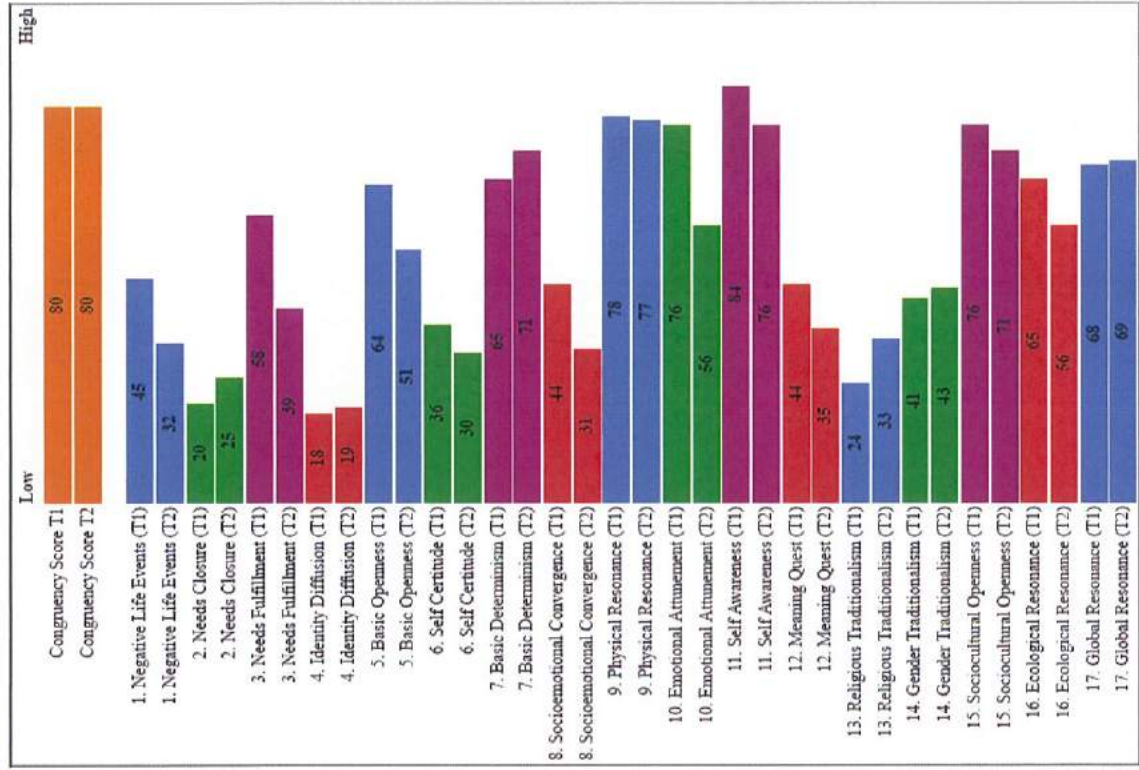
グローバル社会の私たちの食・環境 (体験学習型)

N = 21



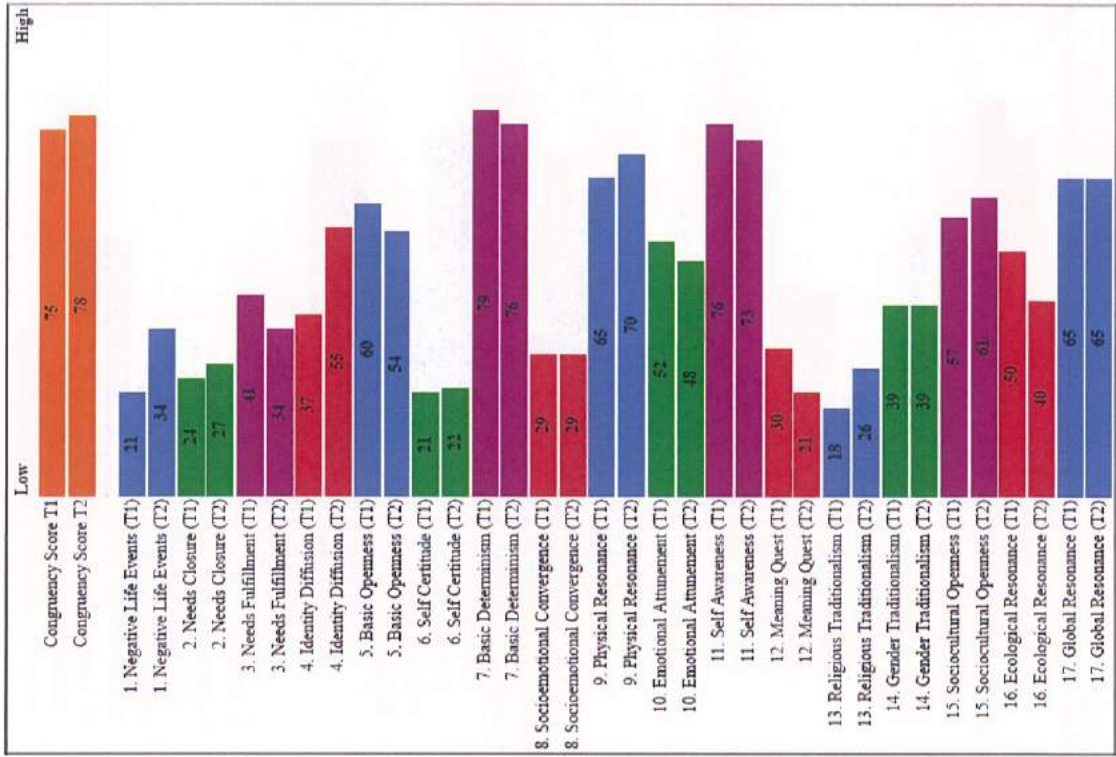
グローバルフィロド学 (体験学習型)

N = 4



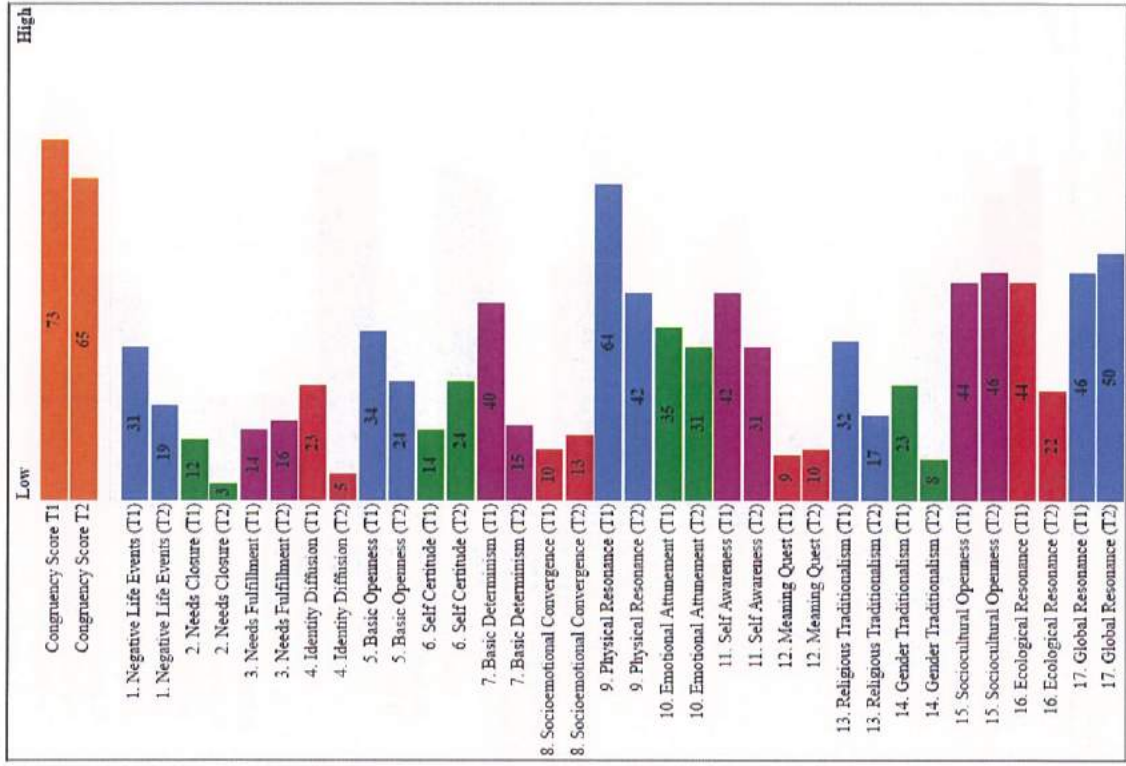
中国語・文化研修 (語学研修型)

N = 4



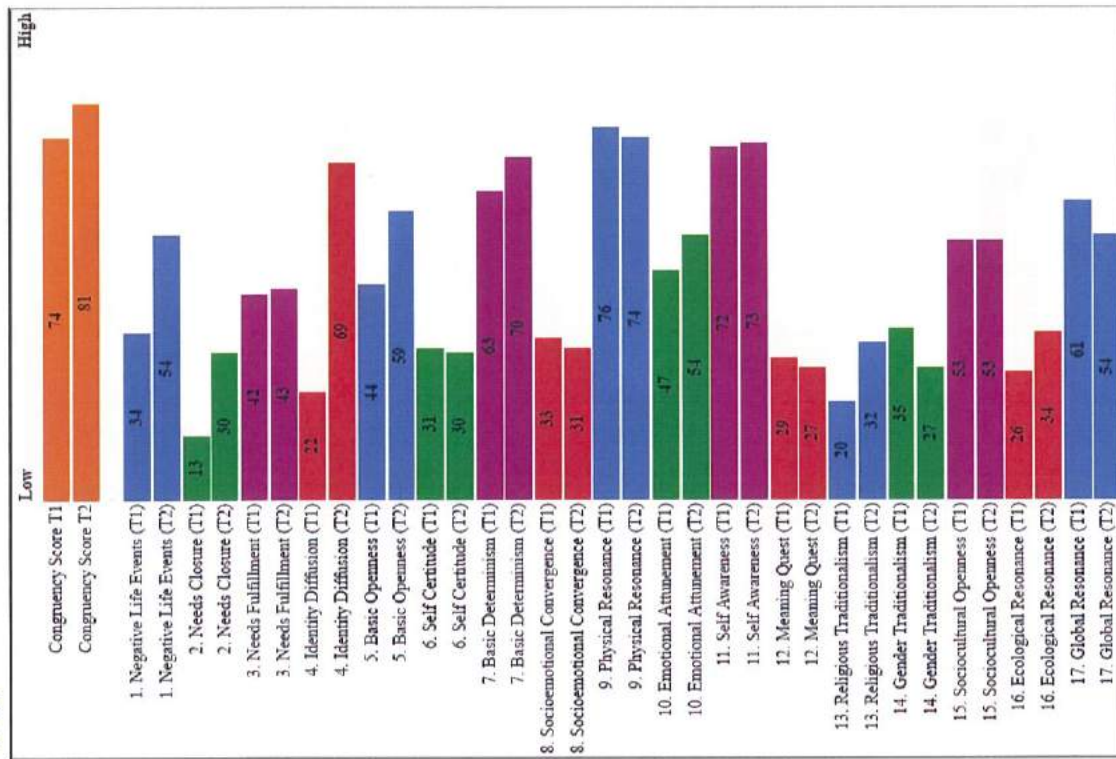
韓国語・文化研修 (語学研修型)

N = 5



英語・イギリス文化研修 (語学研修型)

N = 10



Exploring Your Horizons (体験学習型)

N = 5

